

XIX. Journ. Hattori Bot. Lab. **23**: 192-210. Stephani, F. 1898-1924. Species Hepaticarum 1-6, Genf.

* * * *

本報では主としてアジア産の苔類の基準標本に関する研究結果をまとめた。日本産のもので学名の変更を要するものは (41), (42), (45) で取扱ったものである。(44), (46) では日本産の *Jungermannia* 属の基準標本について論議した。(43) の *Gongylanthus javanicus* はアジア地域にはじめて知られた属である。今まで南米, ヨーロッパ, アフリカに知られていた。(47)―(49) はヒマラヤ地方に新産のもの, (50) はジャワ産のものである。(井上 浩記)

○帰化植物おぼえがき (伊藤浩司) Koji Ito: Notes on some naturalized plants

1. オオカナダオトギリ (新称): 1963年来北海道日高国鷲川町の湿性草地から高橋諄氏により採集されたオトギリソウ科の一品は, 茎は4稜を有し, 高さ 20~40cm. 全体黒点腺を欠き, 萼片や葉に明点腺のみ, 長さ 0.5mm の微細なる種子は 10 稜, 格子状紋様を呈する点で, *Sarothra major* (Gray) Y. Kimura (= *Hypericum canadense* var. *majus* Gray; *H. majus* (Gray) Britt.) によく一致する。Gleason (New Britt. & Brown III. Fl. **2**: 543. 1963) によると本植物はカナダ東部から北米西北部にかけて分布し, 湿性草地や岸边に生ずるという。北海道で採集されたものも高橋氏によると採集地の立地条件はよく似ている。同氏によると附近一帯は放牧にも利用されているとの事で, 恐らく牧草の種子に混じて, 定着したものであろう。和名は, 遠山三樹夫氏による。

2. カラフトホソバハコベ *Stellaria glaminea* L.: 本植物は樺太大泊附近で採集されたものに基ずき, その和名は1915年 宮部・三宅氏樺太植物誌上において発表された。しかし樺太産については, Schischkin (Fl. URSS. **4**: 405. 1936) は疑問とし, 多分移入されたものではないかとみている。最近北見営林局計画課の川代善一氏から同定依頼された標品中, 1964年 7月 1日北海道北見国津別町で採集されたハコベ属の一品は本植物で, 恐らくわが国における最初の記録であろう。Hegi (1909) や Ascherson u. Gräbner (1917) によると, 欧洲産の本種には随分変化があるようである。川代氏採集の標品は全体帯白黄緑色で, 花卉は長さ 6mm に達し, 明らかに萼片より長い点から, 強いて検索すれば *f. glaucescens* Gaud. に近いと思われる。

3. ヤチヌガラシ *Rorripa silvestris* Bess.: これは奥山氏のキレハイヌガラシ (植研 **38**: 256. 1963) と同一帰化植物である。館脇先生の命名された名で, 北海道では専らこの名で知られて来ている。

4. タンポポモドキ *Hypochoeris radicata* L.: ブタナと同じ。ブタナは北村博士により, 1934年 田代善太郎氏の六甲山採集品に基ずき, 同年 10月に植物分類地理に命名発表された。一方館脇博士はその前年, 北海道札幌近郊真駒内の桜山附近で採集され, タンポポモドキと命名している (北海道庁種畜場真駒内の植物学的調査報告. p. 65. 1933) 現在札幌一円に広く帰化している。 (北海道大学農学部応用植物学教室)